

令和2年度

感想文集



となみ野ベースボールクラブ

発行にあたって

このとなみ野ベースボールクラブは、前身のとなみ野硬式野球クラブから数えて19年目を迎えました。

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休校措置や部活動においては各種大会が中止となりました。特に中学3年生にとっては、とても残念で悔しい思いをしたのではないかとの思いから、当クラブでは少しでも野球経験を積ませたいと考え、新型コロナウイルスの感染状況に最大限配慮し、検温、消毒等の感染防止対策をとりながら、例年より約1ヶ月遅れの活動を開始いたしました。ただ、長期にわたる部活動の中止期間もあって、クラブ員22名の体力不足が懸念されました。しかし、そんな心配も他所に全員最後まで頑張ってくれたと思っています。

ところで、当クラブは、これまで687名のクラブ員を輩出し、高校・大学で甲子園・神宮を目指す者、プロを目指す者、あるいは社会人となって働きながら野球を楽しむ多くの愛好者たちが巣立っており、当クラブの活動が地域の野球振興に大きく寄与していると評価を頂いているところです。これもひとえに、学校、保護者、地域の方々のご理解とご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。

そして例年、当クラブでは、この短期間の活動ではありますが、クラブ員が活動の中で感じた様々なことをまとめて感想文集を作成し、関係各位に配布しています。ご一読いただければ幸いです。

終りになりますが、今後とも野球を通して青少年の野球技術の向上と人間形成を基本方針として、更に充実した活動を行うとともに、微力ながら砺波地区の野球の振興に貢献できればと考えていますので、引き続き格段のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、発行にあたってのご挨拶といたします。

令和2年12月吉日

となみ野ベースボールクラブ

となみ野クラブの活動を経て

中田中学校 3年 澤川 央人

僕は、このとなみ野クラブの活動を経て、様々な体験をし、多くの事を学びました。

まず、改めてコミュニケーションは大切だと感じました。このクラブでは学校の部活動と違い、監督、コーチ陣、全ての選手、チーム関係者が同じ学校の方々では無い。そして僕は、高岡地区の為、砺波地区との対戦も少なかった事から、ほとんどの選手を知らない状態からチームの活動が始まりました。その中で仲良くなる為、そして、プレーに繋げる為にも選手間のコミュニケーション、コーチ陣や選手、保護者の方への挨拶は当たり前かもしれませんが、本当に大切だと感じました。

このクラブの活動を始める前に、どんなに野球が下手でも挨拶や当たり前の事を全力でやる事を目標にしていたので、最後まで気を抜かず徹底していました。

そして、クラブの活動を続ける中でライバルの存在は本当に大きいんだなと思いました。部活動の時は、ライバルとかそういうのは意識すること無くプレーしていました。人数も少なく、レギュラー争いも無かったので、気が緩み意識も低かったのかなと思いました。このクラブになると、人数が増え、自分がチームで一番下手になるくらい上手な人が多く、レギュラー争いも経験し、色々な意識が変わりました。この選手に負けたくない意識すると、一つ一つの練習にいつも以上に身が入っていたなと思いました。

その他にもこのクラブを通して、多くを学び体験しました。このクラブで学んだ事を忘れず今後の人生にいかしていきたいです。

となみ野ベースボールクラブに参加して ～変化～

城端中学校 3年 吉本 匡吾

となみ野ベースボールクラブに参加し、自分は「変化」することができました。となみ野クラブではキャプテンを務め、チームを引っ張るものとして多くのことを学びました。また、練習や試合を通して新しい仲間と出会い成長することができました。

プレイの動きやバッティングは軟式とは全く異なりました。中でも一番自分が大きく変わったのは、ピッチングです。コーチの方々に多くのアドバイスをいただき始めに比べ体全体で投げられるようになりました。ストレートの球速もアップし、変化球もよく曲がり、全体的にコントロールもよくなりました。試合でも、ストレートで空振りが取れるようにもなりました。

しかし、まだまだ自分自身多くの課題があります。となみ野ベースボールクラブで学んだことを忘れず「感謝」「思考」「全力」を大切にして、高校に行っても1ランク、2ランクレベルアップし全国で活躍できるピッチャーになりたいです。

このベースボールクラブを通して

城端中学校 3年 松原 達平

僕は、このとなみ野ベースボールクラブを通して思ったことが2つあります。

1つ目は、怖さから逃げないということ改めて感じさせられたということです。中学校の部活では、軟式でプレーをしていて、今のクラブでは硬式でプレーをしています。硬式は、軟式に比べ固く、体に当たると痣ができてしまうぐらい痛いのです。だから、僕は、その怖さから逃げるようなプレーをしてばかりでした。でも、コーチから「逃げている

プレーをしてはいけない！」と言われ、僕は、積極的に思い切ってプレーをしようと思いました。

2つ目は、新しいチームメイトと仲良くなれたことです。みんなとは、親しみは少なく、最初の練習ではあまりみんなとの会話はありませんでした。僕も敬語で会話をしていたので話づらかったです。でも、練習中、僕に「敬語じゃなくていいよ！」と言ってくれて、とても嬉しかったです。そこから、みんなと話すようになり、毎回の野球が楽しくなりました。そして、みんなとの関わりが深まるにつれて、チーム力も段々と高くなって行きました。

これからの野球人生や学校生活に、このとなみ野ベースボールクラブで学んだことを生かしていこうと思います。また、このメンバーで野球をしたいなと思いました。

初めての硬式野球

城端中学校 3年 山本 和哉

僕は「となみ野ベースボールクラブ」での約3か月間の活動を通して、野球の技術をさらに深めることができました。思います。

このクラブが始まる前までは、ボールが軟式から硬式に変わる事やバットが重くなる事の心配よりも、チームのメンバーとうまくやっていけるのが心配でした。やはり、初めのうちは南砺市の知っているメンバーとしか話ができず、砺波市のメンバーとは話できませんでした。しかし、紅白戦や一緒に練習をしていくうちに打ち解けることができました。

練習では、コーチの方からたくさん指導をしていただき、自分に何が足りないのかが分かりました。

初めての紅白戦では、1番ショートとして出場しました。バッティングでは2本ヒットを打つことができましたが、守備ではランナーがいる時にたくさんエラーをしてしまいました。しかし、まわりのメンバーは、責めることなく励ましてくれたおかげで、最後まで前向きにプレーすることができました。

まわりのメンバーには毎回外野に飛ばしたり毎打席ヒットを打ったりする選手がいましたが、僕は紅白戦以降あまりいい当たりのヒットを打つことができませんでした。なので、その人たちに負けないようたくさん練習をしました。

11月1日、最後の試合は負けてしまいましたが、とても良い思い出になりました。この「となみ野ベースボールクラブ」で学んだことを高校での野球にいかしていきたいと思います。

僕が得たもの

城端中学校 3年 今井 寿

僕が今回の硬式野球クラブに参加して、今後大切にしたいと感じたことは二つあります。

まずは、「基礎練習を大切にすること」です。僕は、今まで、「しんどい、めんどくさい」等の理由から、基礎練習は、力は抜かないまでも全力で取り組んでこなかったように思います。しかし、硬式野球に参加し、他校の仲間の様子を見てみると、基礎練習のできている選手とできていない僕では大きな力の差ができており、マイナスからのスタートになってしまったと感じました。中でも守備は、打球に対する一歩目が遅かったために何度もミスをしてコーチの方々に怒られることが多かったです。しかし、そのおかげでプレー中に「一歩目。一歩目。」と意識するようになり、前より素早く一歩目を出せるようになりました。また、そうすることで楽に正面や落下するポイントに入れるようになりました。

次に、「失敗を恐れないこと」です。今までは思い切りスイングできない自分に対し、「三振したらチームに申し訳ない」などの理由を付けたり、言い訳をしたりしていました。本当は、自分に自信がなく、三振を恐れていたのです。

しかし、ある時に「空振り三振を恐れるな。空振りしてもいいから、もっと振ってこい。」と言われ「強振」ということを意識するようになりました。すると、気持ちが晴れたようになり、今までよりもバットの出が良くなり、それと共にボールを見れるようになりました。

硬式野球クラブに参加したことで、ほかにも自分自身を高めるために大切にしたいこと、得たことはたくさんありますが、今後の僕の野球人生において特にこの二つは、これから常に意識していきたいと思います。

ご指導していただいた監督・コーチ・そして砺波・南砺地区の仲間々に感謝したいと思います。ありがとうございました。

野球を通じて学んだこと

城端中学校 3年 樋口 陸人

硬式野球を3か月教わってきて、特に成長したという部分は、大きく分けて2つあります。

この3か月間という短い期間でしたが、野球の技術は勿論のこと、人間面でも成長することができたと思います。最初、硬式に来たときは、「軟式とはボールの軌道が全然違うな」というのが第一印象でした。

そして、何よりも雰囲気引き締まっているのが印象的でした。中学校とは違うなど、より強く感じた瞬間でした。いろいろな中学校の選手と競い合い協力することで、自分の弱さと周りの強さを強く心に感じました。ライバルと腕を競い合うことで、硬式にも慣れてきて楽しく有意義な時間を過ごすことができたと思います。

練習試合では、練習してきた事を生かせるように頑張りました。しかし、バッターボックスに立つと思うようにバットが出ず甘い球も見逃してしまいました。その時、私に声をかけてくれたのは指導者の方でした。「思い切って初球からふってみ」この言葉でとても気が楽になり次の打席では初球でヒットを打つことができました。

この事を通して、自分から積極的に動く大切さを知ることができました。友達と仲良くプレーし、何度も話し合い、相談して時には腹も立てましたが、仲間々は大切だと改めて感じました。

人間面では、あいさつなどの礼儀はもちろん高校野球でも通用する礼儀、態度、感謝を学びました。僕は特に感謝することの大切さを学びました。まず、毎回送迎をしてくれる親への感謝、そして何よりも、お忙しい中、僕たちの指導をしてくださっている指導者の方々への感謝、一緒に野球をしてくれる友達への感謝です。僕は、感謝の気持ちがあれば、前者に掲げた礼儀、態度は自然とついてくると思います。それは、指導者の方々も言われていましたが、させられている野球だけでなく、自ら野球がしたい、という気持ちにつながると思うからです。

最後に、これまで僕たちを指導してくださった指導者、コーチの方々本当に今までありがとうございました。

「となみ野」に来て

福光中学校 3年 森口 礼崇

僕達福光中学校は、夏の交流大会で庄西中学を倒し、福野中学に惜しくも負けました。個人的には不完全燃焼で中学野球を終えたくない気持ちが強く、そう思った時となみ野ベースボールクラブのプリントを見て、もう少し野球ができる楽しみにしていました。

実際に始まると知っている人や知らない人がいる中、うまくやっていけるのか不安な気持ちしかなく、苦労したことを覚えています。

自分は、野球が上手いと思っていましたが周りの皆のほうがよっぽど上手く、中学の練習よりレベルが高かった為ついていくのが精一杯でした。少しずつ自信を無くしていきプレーが消極的になり散々な結果で終わりました。

野球歴が浅い僕にも優しく教えていただいたコーチや、僕のことを気に入ってくださったコーチが為になるようなことや高校で教わることなどいろいろ教えてくださいました。それを生かし高校でも野球を続け、僕より野球が上手い人のことを見返してやりたいと思います。

最終的には野球を楽しむことが少しはできたのかなと思いました。ですがまだワイルドピッチの嫌な印象が残っているのでそれで崩れるのではなく、強い気持ちをもって、より強く、たくましい野球選手になりたいと思いました。

「となみ野」に来たからこそ、あの辛い気持ちを味わい前向きになれたし、レベルの高い野球ができたと思います。

お忙しい中、野球のいろはを教えていただきありがとうございました。

となみ野ベースボールクラブに参加して

福光中学校 3年 川口 翔也

中学校の部活では、人数が少なく効率的な練習ができませんでした。しかし、今回となみ野ベースボールクラブに参加し、たくさんの仲間と共に、効率的な練習ができ、技術を高め合うことができました。上手い人の技術を盗んだり、仲間に聞いたりしながら試行錯誤して技術を高めました。練習試合などにも出させていただき大変うれしかったです。硬式野球でヒットを打てるか不安でしたが、初めて打てた時にはとても感触がよく、気持ちよかったです。芯に当たると気持ちよいですが、根本や先っぽに当たると手がジンジンし、その感覚が残っていて、今も怖い気持ちがあり、思い切り振るのが怖いです。高校に入ってからバットの芯に当てる技術を身に付け、思いっきりバットを振りたいです。

他にも、僕は人見知りなので、他の学校の人と仲良くなれるか心配でしたが、相手から積極的に話しかけてくれて仲良くなることができました。高校では自分から積極的に話しかけ、誰とでも上手くコミュニケーションをとれるように頑張りたいです。

最後の交流大会に出られないことは大変残念ですが、残るみんなには頑張してほしいと思います。

仲間

福野中学校 3年 福岡 亮雅

長かった冬が終わり、さあ思いきり野球をするぞ、試合で結果を出すぞと意気込んでいた矢先、突然の休校ですっかりモチベーションが下がってしまいました。やがて学校が再開し、少しずつ野球や試合ができるようになったものの、あっという間に引退、消化不良のまま終わってしまいました。しかしバッテリーを組んでいた友人と硬式野球クラブに参加することになり、また野球ができる、早くやりたいとウズウズしていました。

そして活動初日、試合などで何人かは知っているとはいえ、ほとんど知らない顔ばかり、さすがに少し不安な気持ちも出てきました。レベルが違ったらどうしよう、下手すぎて笑われたらどうしよう、コーチに叱られたらどうしよう…でも練習が始まるとすぐに心配はなくなりました。もちろん、周りの皆はとても上手でしたが、一緒に野球が出来た嬉しさの方が上でした。真夏の暑い時の練習は大変でしたが、それなりのピッチングが出来たときは、やって良かったと思いました。

このクラブのおかげで、部活だけでは知り合うことのなかった人たちと出会い、部活では敵同士だったのが、仲間になり楽しかったです。そして3年間バッテリーを組んでいた友人の良さに改めて気づくことができ本当に良かったです。

となみ野ベースボールクラブで学んだこと

福野中学校 3年 雲龍 大和

中学校野球部では 4 人、スポーツ少年団では同学年は自分 1 人という常に少人数で野球をしてきた僕にとって、県硬式野球で多くの仲間と切磋琢磨し合えた環境は、素晴らしい成長の場となりました。多くのライバルと共に競い合いレギュラーの座を目指し向上心をもって野球に取り組みました。

県硬式の練習が始まった頃は打てず守れずだった僕に、熱心に指導して下さったコーチの方々には大変感謝しています。バットの出し方、角度等数多くのことを教えて戴きました。特にタイミングのとり方についてはとても記憶に残っています。『タイミングのとり方は人それぞれ。足を高く上げる人、低い人。摺り足だっているし、ノーステップの人もある。バッティングとはタイミングがとても大事だ、自分に合ったタイミングのとり方を見つけなさい。』コーチの言葉が打てずに悩んでいた自分を大きく変えてくれました。

僕は、高校でも野球を続けます。高校では更にレベルの高い野球をすることになると思います。時には見えない壁、大きな挫折を経験すると思います。そんな時には中学野球部の恩師の言葉や、県硬式での経験を活かし全力で乗り越えたいと思います。

最後に、新型コロナ禍の中、万全の対策で練習や試合を実施して下さった多くの方々に感謝しながら、今後の野球人生の糧にしていきたいです。

となみ野ベースボールクラブを通して学んだこと

庄川中学校 3年 嶋田 康生

僕は、小学2年生の時から軟式野球してきました。だから硬式野球もさほど軟式と変わらないと思っていました。しかし、いざクラブの活動が始まると軟式との違いがはっきりと分かりました。

まず、始めに気づいたことは、軟式の時とは違いボールがあまり跳ねなくて、軟式の時からの課題であった低い姿勢をさらに意識しなければならなくなりました。

次に気づいた違いは、バッティングです。軟式の時とは違い、しっかりとらえなければ手にもものすごい痺れが来ました。その時はとても痛かったのを覚えています。

練習を重ねていくにつれて、僕もだんだんとチームにも硬式にも慣れていきました。けれど、慣れていくうちに練習の時、緊張感が無かったり気が抜けていたりしていました。そんな時、コーチの方々に叱っていただいたおかげで気づくことができました。コーチ方々には、練習の時もみんなに優しく、分かりやすく指導をしていただいたり、時には厳しく指導していただいたりしました。そのおかげで野球の技術は勿論のこと、社会でたときに必要な態度やマナーなども教えていただきました。

僕は、この経験を生かして高校へ行っても社会に出た時も生かしていきたいと思います。

となみ野ベースボールクラブに参加して

庄川中学校 3年 福島 陽哉

僕は、となみ野ベースボールクラブに参加してたくさんのことを学びました。

バッティングで悩んだまま中学校の部活動が終わり、すぐにクラブチームに参加しましたが、最初は思うようなバッティングができませんでした。しかし、コーチの方々がたくさんアドバイスをしてくださったおかげで徐々に試合でも打てるようになり、少し自分に自信が持てるようになりました。

また、たくさんの仲間も作ることができました。最初は、少し緊張してチームメイトとあまりコミュニケーションを取れませんでした。3か月間一緒に野球をしていると、良き仲間となり良きライバルもできました。

そして、当たり前のことでもできるようになりました。挨拶をする時は、歩きながらではなくしっかり止まって挨拶するようになったことや、親への感謝も前よりもするようになり、洗濯物や送迎、弁当などたくさん僕のためにしてくれたことに感謝する大切さを学びました。

僕は、コーチの方々などのおかげで成長することが出来ました。この恩返しは、高校で活躍することも一つだと思っているので、これからも努力を惜しまず続けて行きたいです。

これまで本当にありがとうございました。

となみ野ベースボールクラブに参加して

般若中学校 3年 吉澤 亜門

となみ野ベースボールクラブを通して、僕は多くの貴重な経験をしました。

小中学校時代、同学年が自分一人だけしかいなかった僕にとって、いろいろな中学校の同学年の選手と一緒に練習することは、技術面でも精神面でも、とても刺激になりました。

特に1日練習で疲れた時に、周りの人たちが明るく声をかけてくれて笑顔にもなれたし、試合中も大きな声援をしてくれたりして、とても心強く安心してプレーすることが出来ました。2ヶ月間という短い間でしたが、同学年のチームでやれた野球や友情は大切な思い出として記憶しておきたいです。

また、硬式野球なので最初は球が当たると痛いだろうし怪我への不安もありましたが、コーチの方々から、練習での基本動作の大切さや試合での動きなどを丁寧に教えていただき、試合では集中してプレーすることが出来ました。本当にありがとうございました。

最後にこの活動を一番支えてくれた父と母にも感謝したいです。父は、送迎や試合にとことん付き合ってくれました。母は、僕に何が食べたいか聞いて、好きなものを弁当に入れてくれました。

たくさんの人たちのおかげで今回の活動を経験できたので皆への感謝を忘れず、これからも頑張りたいです。

砺波のベースボールクラブでの経験

出町中学校 3年 前田 舜介

僕は、8月から11月の3か月で多くのことを学びました。

このクラブに入ってから初めて外野手に挑戦しました。ノックの時に捕球の基礎や送球について詳しく知って、その日から外野で自信を持ってプレーすることが出来ました。

バッティングではなかなか打つことが出来なくて、最初の紅白戦では4打数1安打と結果を残せませんでした。しかし、コーチからバッティングのアドバイスをいただき、魚津ミラージュとの練習試合では次に繋ぐバッティングをすることが出来ました。でも、そのバッティングを次の試合で続けることが出来ませんでした。

打てなかったり、バントを決めること出来なかったりと失敗が続きました。それでもその失敗を次は成功にすることができるよう努力し、最後の練習試合の魚津ミラージュ戦では進塁打を打つ、スクイズを決めるという課題を克服することが出来ました。また、その日の守備ではファインプレーをすることが出来、守備でもさらに自信がつかました。

この3か月で学んだことを無駄にせず高校でも活かして行きたいです。

となみ野ベースボールクラブで学んだこと

出町中学校 3年 山田 拓弥

僕は、このとなみ野ベースボールクラブで学んだことが多くありました。

最初は、あまり喋った事がない人が多くて出町で固まって行動することが大半でした。ですが、次第に慣れてきて仲良く他校の人たちと楽しく野球をすることが出来ました。

硬式のボールは軟式と違って、すごく痛いし、怪我もして大変なこともありました。そんなとき、チームメイトが心配してくれて、改めて仲間の大切さも実感しました。

試合も最初は硬式ボールへの対応が難しく打てずにいました。そんな時、コーチの皆さんが丁寧に教えてくださったおかげでどんどん打てるようになりました。高い打率も残せたので、コーチの皆さんには感謝しています。

練習時間も中学の軟式の部活の時は、土日のどちらか半日で今回のような二日間一日練習というのは初めてですごく疲れました。

高校ではもっと厳しい練習になると思います。高校入学まで、チームとしての練習や試合はないので、自分でできる練習や体力づくりなどを行い、気持ち新たになんぼっていきたいです。

新型コロナウイルスの影響で硬式野球の活動が行えないかもしれないと聞いたときはすごくショックでしたが、練習試合や大会まで開催していただきました。

最後の大会では四番で先発もさせて頂きました。石川のものすごいレベルを体験して、自分の実力がまだまだなんだと改めて実感しました。この試合で感じたことが、僕の野球人生の貴重な体験となるために、常に向上心を持ち、練習に取り組み、野球に向き合いたいと思いました。

このとなみ野ベースボールクラブで学んだことを活かして、高校ではもっともっと高みをめざして進みます。期待と応援をよろしくお願いします。三か月という短い期間でしたが本当にありがとうございました。

となみ野ベースボールクラブで学んだこと

出町中学校 3年 北河 凜太郎

僕がとなみ野ベースボールクラブで学んだことは、「継続する」ことの大切さです。なぜかと言うと、入部時に自分の体力がとても落ちていたからです。

となみ野ベースボールクラブに入った当時は、まだ始めということもあり、体を慣らす練習でした。しかし、次第に厳しい練習になっていき、猛暑が続き暑さにやられて練習を一旦抜けて休むことが何度もありました。これは、練習が厳しくなったことありますが、一番の原因は体力が落ちていたことです。

中学校での部活動が終わり、となみ野ベースボールクラブで活動するまでの間、あまり運動をする機会がなく、自分では気付かないうちに体力が大幅に落ちていました。それは、好きな野球をしているのに早く練習が終わって欲しいと思うほど、辛いものでした。元々は体力に自信がある方でしたが、現実には厳しく頑張らなければいけないと思いました。

しばらく活動するうちに猛暑での練習にも慣れ、仲間とも親交が深まっていき、練習を楽しみと思えるようになりました。練習の成果を試合で出せた時は、しっかり練習して良かったと思ったり、野球が楽しいと思えたりと達成感を得られました。

しかし、体力が落ちてしまっていたことがとてもショックで、最近は体力維持のためにランニングをするようにしています。このことから、今後はこういうことで後悔することが絶対に無いようにしようと思いました。このようなことから、僕はとなみ野ベースボールクラブの体験から「継続する」ということがとても大事だと分かりました。

今は、受験生であることから勉強が大事です。勉強では、一度覚えても継続して勉強して身につけないと問題を解けなかったり、一度テストで解けても次回に間違えることがあります。勉強も、野球同様に「継続する」ことが大切だとあらためて思いました。

僕は、このとなみ野ベースボールで学んだ「継続する」大切さを、今からも、これからも、生活や人生に活かしたいと思います。

感想文

出町中学校 3年 金澤 尚輝

この活動を通して、野球の技術とメンタル面が成長できたと思います。

9月22日に初めて試合した時、自分が全然打てないことを知り、とても悔しくて、練習や家で一生懸命練習しました。すると、バッティング練習などで、いい打球が打てるようになり、とても嬉しかったです。

最後の大会の前の日に、紅白戦をしました。その時はいつもより緊張しており、全くバットが振れない状態でした。

その日は、たくさん打席が回ってきて、打席に立つごとに、緊張も解けてきました。そして最後の打席の2球目、高めの球を捉えてライトオーバーのランニングホームランを打てました。しかも満塁弾で嬉しかったです。

最後の大会の一回戦目、相手は石川のチームでした。全員がブンブン振ってきてとても怖いチームでした。投手も球が速く、低めに集めてくるいい投手がたくさんいました。綺麗に右中間を抜かれたりして、とても悔しかったです。

石川県とのレベルの差を感じられるいい機会になりました。とても良かったです。硬式球で試合をしたり、練習したり、とてもいい機会でした。

本当にありがとうございました。

となみのベースボールクラブに参加して

出町中学校 3年 野原 凜翔

中学校の部活動での軟式野球が終わり高校でも野球を続けたい僕は、少しでも硬球に慣れる為、となみのベースボールクラブに参加しました。

硬球は、軟球とは違い重くて硬く、最初の頃はゴロのバウンドが合わず、上手く捕球することができませんでした。ピッチング練習では、コントロールが定まらず球が浮くことが多く、なかなかストライクをとることができず苦戦しました。

しかし、監督やコーチの方々、硬式のボールに慣れていない僕の為にたくさんのアドバイスや指導をして下さったおかげで、だんだんと自信がついてきました。

また、他の中学校の人達と同じチームになり、たくさんの仲間と切磋琢磨して今まで経験した事がない同じポジションでの競い合いは、お互いの技術を高め合えるとてもいい機会だったと思います。

僕は、このとなみ野ベースボールクラブで学んだ事を今後の高校野球に生かし、一生懸命頑張っていきたいと思います。今まで指導して下さいました監督やコーチの方々、道具当番や審判に協力して下さいました保護者の方々、短い間でしたが本当にありがとうございました。

クラブに参加して思ったこと

出町中学校 3年 川辺 康介

僕は、となみ野ベースボールクラブに参加することで「基礎の大切さ」、野球の「楽しさ」を感じ、学ぶことができました。

僕は、クラブチームで活動している期間中に何度か怪我をしました。その約一か月間、バットを振ったりボールを投げたりできない日が続きました。同じチームのメンバーがキャッチボールやバッティング練習をしている間、自分は、守備の基礎練習やマシンにボールを入れる係をしている時間が一番悔しかったです。だけど、基礎練習を続けることで、エラーや怪我につながる悪い癖を少し改善することができました。

怪我が治り、練習や練習試合に参加できるようになると、ゴロ捕球が以前よりも簡単になり、成長したことを身をもって感じる事ができて、二倍野球を楽しむことができました。同時に、約一か月間、基礎練習に付き合ってくださったコーチの方々に、感謝しないとイケないなと思いました。

練習試合や交流戦を通じて、ホームランを打てる選手や守備が上手な選手が同級生に居ることを自分の目で見る事ができとても刺激になりました。レベルの高い同級生に負けないために、高校に入学するまでの間も練習を続けて差を縮められるように頑張りたいです。

努力の質を高めることで

出町中学校 3年 中村 柊太

私は、となみ野ベースボールクラブに所属して、中学校の部活とは仲間やコーチが違った中で野球をしてすごく刺激を受けました。

初めて練習に参加したときは、今まで部活やスポ少で経験したことの無い辛さについて行くのに精一杯でした。しかし、周りの仲間達は、平気な顔して練習をこなしていく姿を見て悔しい気持ちと焦りが生まれました。それから、今までよりも素振りの時間を増やしたり、ランニングをしたりなどと努力を続けました。そのおかげで練習についていくどころか、先頭に立って練習メニューをこなせるようになりました。

また、初めての試合では、中軸を打つこともできました。私は、うれしくてその後も努力を続けました。

しかし、試合をこなしていくうちに結果が出なくなっていました。努力を続けていたのに結果がでなくて悔しくやけくそになってしまいました。そのせいでスイングが汚くなり、もっと打てなくなりました。

でも初心に戻り自分の課題を見つけ改善していくことで、スイングの状態もよくなり、バットの芯で捉えられるようになり、試合でも結果がでるようになり自信ができました。

このクラブに入って私は、ただ我武者羅に練習するのではなく、しっかり課題を見つめ練習の質をあげて一つ一つ課題を潰していくことが大切だと学びました。だから、これからも壁にぶつかることがあったら課題に向き合い乗り越えたいと思います。

約三ヶ月という短い時間でしたがご指導ありがとうございました。

仲間の大切さとサポートしてくれた周りへの感謝

出町中学校 3年 森 隼真

僕は、となみ野ベースボールクラブに所属し、今まで経験できなかったことを学ぶことができました。

練習に参加し、中学の部活動よりも高いレベルの野球だったのでついていけるか不安でした。

初めての紅白戦では4打数0安打で全くアピールができませんでした。凄く悔しくて、それをバネに毎日欠かさずに自主練習しました。すると、初めての練習試合で3打数2安打としっかりとアピールすることが出来ました。

それからは、今まで自信のなかったバッティングでしたが、自信を持ち見極めて打てるようになったと思います。

部活動では下位打線ばかりだったので、となみ野ベースボールクラブに来て初めて1番を打たせてもらい凄く嬉しく自信に繋がりました。

バッティングだけではなく、走塁や守備もコーチの方々に教えて頂き、積極的に次の塁を狙ったり、ボールを捕球したあとの送球も良くなりました。

野球はチームプレーなので自分だけのことを考えるのではなく、仲間のことを考えて意見を出し、コミュニケーションをとりながら高め合うことが大事だと考え、技術も大切ですが仲間への思いやりの気持ちも大切だと感じました。

また、指導して下さった監督やコーチ、送迎や応援してくれた家族にはとても感謝しています。

高校に行ったらもっと高いレベルの野球環境だと思いますが、となみ野ベースボールクラブで学んだことを活かし、甲子園を目指して頑張ります。

となみ野ベースボールクラブを通して

出町中学校 3年 藤井 一植

僕は、最初、硬式野球をしようか迷っていました。なぜなら人生の分岐点でもある高校受験があるからです。ですが、今ではこのクラブで野球をする事ができ、本当に良かったと思っています。

まず、自分が出来ていない所や悪い癖の事について、沢山の事を的確にコーチの方々に教えていただきました。初めは慣れない守備位置やパターンがあり戸惑ったけど、徐々に慣れていき守備が楽しくなりました。

しかし、バッティングでは自主練習を怠っていた時期もあり、周りの人との差を感じました。それから、継続してする事を意識しました。すると、今まで打った事のない打球が打てたり、自分に自信を持つ事が出来ました。この事から、結果がついてこなくても「継続」し、諦めない事の大切さを実感しました。

時には、今までにないハードな練習も沢山ありました。特に真夏の1日練習が1番きつかったです。でも、これ乗り越えた事で自分の自信に繋がったと思います。

改めて、僕は、このクラブに入って良かったなと思います。コーチの方々に沢山の事を教えていただき、高校でも野球をする事の糧になりました。そして、自分の実力を知り自主練習の大切さを知る良い機会となり本当に良かったです。このクラブで学んだ事を生かしてこれからも頑張りたいです。